

〈625〉木星の別名「歳星」 12年で1周年を数えているよう

「東の地平線近くに不気味なくらい明るい星が見えたのですが、何という星ですか」と聞かれることが多いかもしれません。「遅くまで起きていたんですね」と返事をする時、「何で分かるんですか」とまた聞かれます。「この明るい星は「歳星」です。図1のように、午後10時を過ぎると東の空に上ってきます。

（黄道に並んだ12の星座）を1年にほぼ一つのペースで移動し、12年でまた現在の位置に戻ってきます。まるで年を数えているようなので歳星という名前を持っています。

実は歳星は、私たちが木星と呼んでいる星です。木星は、惑星に五元素「木・火・土・金・水」を割り当てた時に付いた名前ですが、歳星は古代中国から日本に伝わってきた呼び名です。黄道十二星座は西洋を起源とするので、中国由来の名前であることと合わない

いと感じる人もいると思います。中国では「十二次」という黄道十二星座に相当する考えが使われていました。

古代の人々は、月の満ち欠けの周期を1カ月の単位とし、12回繰り返すと1年だとしました。中国では月の名前に「子丑寅…」の十二支を対応させていました。この考えを応用し、年を数えるにも十二支を使うようになりました。今年の干支は子ですね。十二支に「甲乙丙…」の十干を組み合わせて60年周期の呼び名になります。1番目の組み合わせは「甲」と「子」による「甲子」ですが、これは甲子園球場でおなじみですね。一巡すると還暦で60歳のお祝いをするわけです。

12という周期と、木星の公転周期が11・86年とほぼ12年である偶然が重なって、木星は歳星という名前をもらうことになったのです。



【図1】6月24日午後10時ごろの南東の夜空

木星（歳星）がある星座

| | 6月 | 12月 |
|------|-------|-------|
| 2020 | いて | いて |
| 2021 | みずがめ | やぎ |
| 2022 | うお | うお |
| 2023 | おひつじ | おひつじ |
| 2024 | おうし | おうし |
| 2025 | おうし | ふたご |
| 2026 | ふたご | しし |
| 2027 | しし | おとめ |
| 2028 | しし | おとめ |
| 2029 | おとめ | てんびん |
| 2030 | てんびん | へびつかい |
| 2031 | へびつかい | いて |
| 2032 | やぎ | やぎ |

【図2】毎年6月1日と12月1日に木星が位置する星座

最後に、木星が位置する星座を表にしました（図2）。自分の星座に重なったらラッキーと思うことにしましょう。実際は複雑な動きをしながら進みますし、星座の大きさはさまざまで、黄道も古代に比べ徐々にずれてきていますので、厳密に1年で星座一つ分進むわけではありません。へびつかい座を通ることもありません。

星空ガイドツアー休止
山形市の山形大小白川キャンパス内にある「やまがた天文台」は、新型コロナウイルス感染症防止のため、毎週土曜日開催の星空ガイドツアーを休止しています。再開時期は未定。